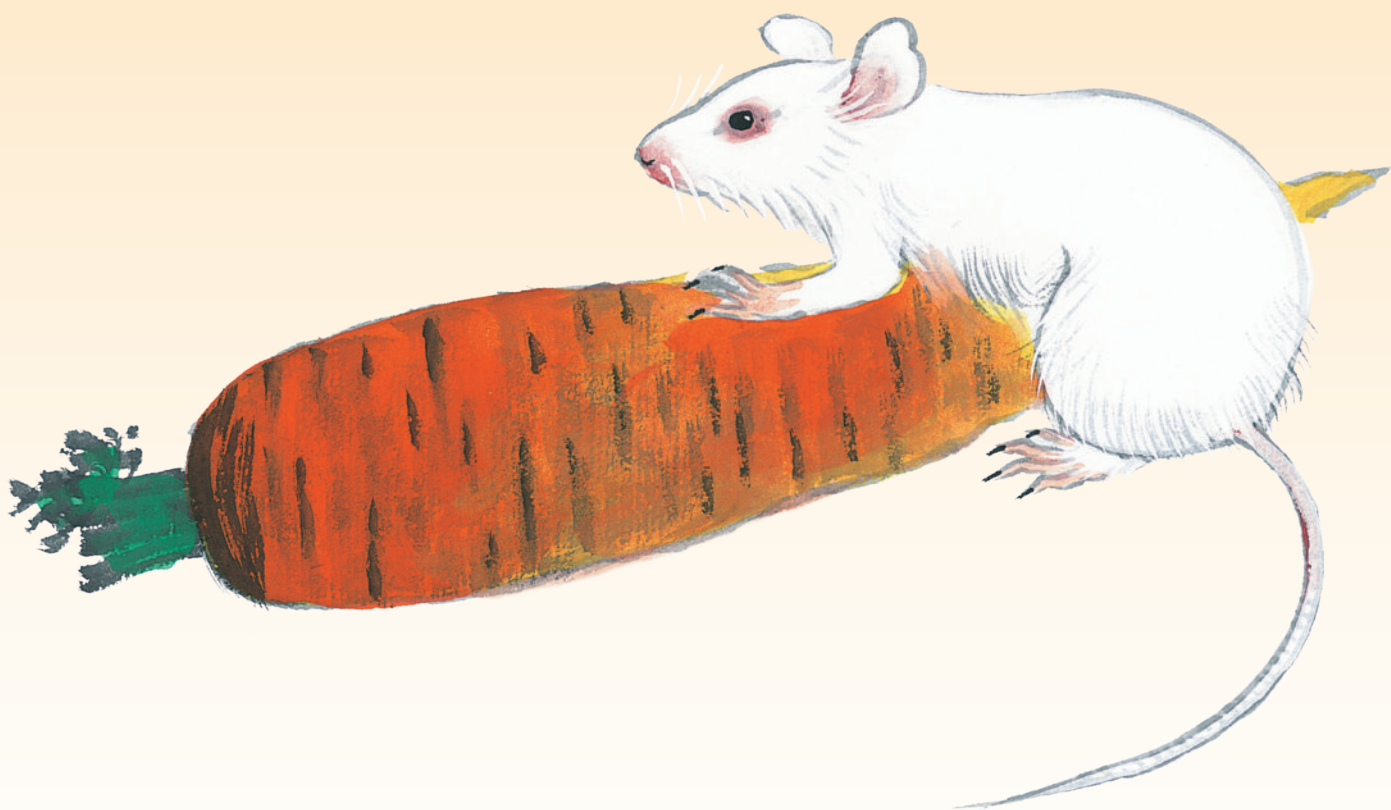


新善光寺 寺報 北 縁

2020年1月 Vol. 42

ほくえん



年頭所感

お檀家の皆さまにおかれましては、清々しく新年をお迎えしたと存じ上げます。日頃より当山の護持運営にご尽力を賜り、篤く感謝申し上げます。本年も皆さまと共にすこやかな一年でありますよう、ここに祈念いたします。

今年はいよいよオリンピックイヤーです。突如として、マラソンの開催が札幌となりましたが、無事にゴールできることを願うところです。ところで、私たちの人生にも必ずゴールがあります。いつどんなゴールかはわかりませんが、浄土宗の御教えを仰ぐ私たちにとっては、往きつくところは決まっています。山あり谷ありの人生ではありますが、お念仏を杖・柱としてこの道を歩み、いつの日かお浄土へとたどり着きたいものです。

住職 太田 眞琴

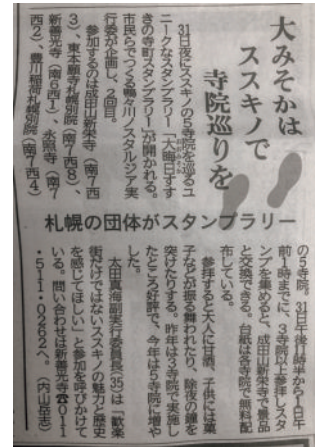


前列左より のぎきこうし 野崎幸史(69歳) おおたしんかい 太田真海(35歳)(副住職) おおたしんきん 太田眞琴(71歳)(住職)
おおたこうけん 太田光顯(38歳)(清瑋寺住職) まつおいつし 松尾一志(84歳)
後列左より こまきねきんしょう 駒木根琴生(78歳) ぞうかわしんしょう 宗川信章(55歳) たちばなしゅんぷ 立花俊輔(39歳) (新) さこうしょう 佐古康祥(33歳)
※10頁参照

除夜の鐘を撞きました

全国的にテレビや新聞などで除夜の鐘について取り上げられておりましたが、新善光寺では12月31日23時45分頃から例年通りに鐘を撞き始めました。

また、近隣5カ所の寺院を参拝して巡るスタンプラリーも開催し、ススキノ周辺はお寺巡りでにぎわっていました。



ご寄進いただきました

昨年お亡くなりになられた西野アキ様のご遺族様からご寄進がございました。新納骨堂の十一面観音菩薩像前にお名前とお戒名が刻まれた香炉を奉安予定です。この場をお借りして謹んで御礼を申し上げます。

心を落ち着かせて写経をしてみませんか

毎月第4土曜日に仏教講座を開催し、7月と12月以外は基本的に写経をおこなっております。静寂な空間で集中することで、心が落ち着く・穏やかになったと大変好評をいただいております。

ぜひ、この機会にご参加いただければと思います。どうぞ、よろしくお願いたします。

2月22日(土)14時開始 参加費:500円

※以降毎月第4土曜日開催



〈団体参拝旅行のお知らせ〉

今年の秋は法然上人の足跡をめぐる旅に出てみませんか

日 程

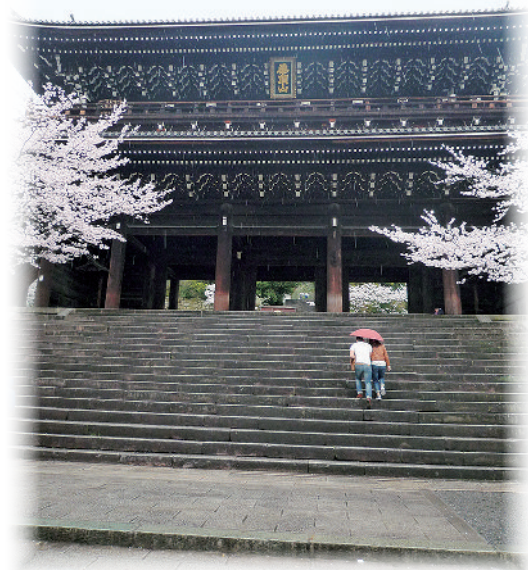
令和2年10月7日(水)～9日(金)

前号でお知らせしていた京都への団体参拝旅行の日程が決まりました。

今回の旅行のテーマは「法然上人の足跡をめぐる」ということにしまして、浄土宗総本山知恩院参拝をメインに京都近郊の寺院も多く参拝する予定です。

現在、「どのようなコースにしていこう」、「どこのホテルや旅館に泊まろう」などと旅行会社の方と話し合いを進めているところです。

次ページに参拝する寺院の紹介をしております。また、「ここに行ってみたい」、「ここはどうだろう」ということもあれば、ぜひ“アンケートはがき”に書いて送っていただければと思います。



比叡山

比叡山ひえいざんは、京都市の北東に位置する標高 848m の山です。(ちなみに、札幌の藻岩山は標高 531m です。) 今からおよそ 870 年ほど前、15 歳の法然上人 (1133 ~ 1212) はこの地で出家・授戒し正式なお坊さまとなりました。それから、43 歳まで法然上人は比叡山で過ごされます。夏は湿気が多く、冬は極寒の地であるこのお山は、環境的にとても厳しいところですよ。さらに、学識の高い僧侶が集まり、論議の盛んな場でありました。

知恩院

43 歳で比叡山を下りた法然上人は、加茂の禅房・白河の禅房・西山広谷などに移られましたが、やがて東山大谷ひがしやまおおたにの地、つまり現在の知恩院周辺に住まわれました。当時、この地は青蓮院しょうれんいんの寺領であったと思われます。青蓮院の慈円僧正じえんそうじょうの兄は、九条兼実公くじょうかねざねです。兼実公は、法然上人から戒を授かっています。お念仏みの御教えを通してお二人はとても親しい間柄でした。そのご縁から、法然上人がこの場所にお住まいになられたのだと拝察します。

75 歳の時、法然上人は配流の身となり、ひとたび京都を離れますが、79 歳の時この知恩院の地に戻られました。その翌年、法然上人はお浄土へと往生されます。この知恩院は、法然上人終焉の地であり、お浄土へとつながるスタートラインでもあるのです。

粟生の光明寺

法然上人が亡くなられてから 15 年後の嘉禄 3 年 (1227)、現在の知恩院にあった法然上人のお墓が破壊されそうになりました。そこで弟子たちは、法然上人のご遺骸を東山大谷うずまさの地から運び、太秦から嵯峨野を経由し、この粟生あおの地に到りました。そして、安貞 2 年 (1228) ここ粟生の地にて法然上人のご遺骸が荼毘だびにふされたのです。

シリーズ 仏事のおはなし

年中行事のはなし ②

新年あけましておめでとうございます。本年も引き続き「シリーズ 仏事のおはなし」をよろしく願いいたします。

さて、前回より浄土宗における年中行事のおはなしを掲載しています。前回は10・11月の行事「十夜法要」についておはなしさせていただきました。昨年の11月3日は新善光寺の十夜法要でしたが、皆様はお参りいただけましたでしょうか。

今回は、12月と1月の行事についておはなししたいと思います。

・12月の年中行事

前号で表に示した12月の行事は「成道会」「仏名会」「除夜」の三つです。このうち除夜については「除夜の鐘」というと、皆さんに聞きなじみがあると思います。あとの2つは一般的には耳なじみがないかもしれませんね。

・成道会

成道会は仏教を開かれたお釈迦様が世の真理を覚った記念のご法要です。「成道」は「おさとりを開く」の意を指す仏教語です。「おさとりの日」としておぼえていただければよろしいかと思えます。

おさとりを開かれた記念の日なので、日にちは決まっています。「12月8日」がその日となります。お寺によっては別日に設定してお勤めすることもあります。

浄土宗は阿弥陀さまがご本尊ですので「南無阿弥陀仏」とお称えしますが、成道会はお釈迦様の御法要なので、法要の中では「南無釈迦牟尼仏」とお称えすることが法要式で定められています。

因みにこの成道会は「釈迦三大法要」のひとつとされています。釈迦三大法要は「灌仏会（降誕会）」（=花まつり、お釈迦様がご誕生された日、4／8）「成道会」「涅槃会」（=お釈迦様が入滅された日、2／15）の三つです。

・仏名会

仏教では、我々が人として生きていく上で様々な罪業を犯すとしています。自らその罪を見つめ、反省をするというのが仏名会です。「仏」の「名」と表記するのは、この法要で阿弥陀さまの御名である「南無阿弥陀仏」のお念仏を称え、またお念仏と共に礼拝を行うためです。この行事は、毎年12月に日を定め、知らず知らずのうちに一年間に犯した罪を懺悔し、身を清めて新年をお迎えする意義があります。

新善光寺では、毎年12月11日に勤めています。この日は第2世 林 玄松上人の祥月命日にあたります。

・除夜

除夜は大晦日の夜から元旦にかけて勤める法要です。「旧年を除き、新年を迎える夜」であり、この一年の自分を見つめなおし、新年を迎えるという意味です。「除夜の鐘」は三毒（貪欲（むさぼり）・瞋恚（いかり）・愚痴（おろかさ））などによって生まれる煩惱、克服することができない108種類の煩惱を取り払う事に願いを込め、その数、108回撞きます。

新善光寺では、毎年12月31日22:00からお内仏にてお勤めをし、23:45頃より年をまたいで除夜の鐘を撞きます。（数は108回しか撞きませんので、来られた方に順次整理券をお渡ししています）

・1月の年中行事

除夜を越し、新年になりますと「修正会」「法然上人御忌」などの行事があります。

・修正会

修正会は読んで字のごとく「正月に修する法会」です。新年にあたって、天下泰平・国家泰安・五穀豊穰など、人々のその年の幸運を祈ります。この法要の起源は中国の年始儀式にあるとされています。日本では奈良・平安時代の護国思想から発祥し、勤められてきた法要です。

新善光寺では、宮の沢別院 清璋寺にて年始祈願法要と併修で執り行っています。法要後には餅つきの行事も行っています。

・法然上人御忌

我々、浄土宗の宗祖 法然上人の御命日の法要が「御忌」です。総大本山をはじめ全国で多くの寺院が季節のよい四月などに大法要として勤めることが一般となっていますが、御正当日は1月25日です。

「御忌」とはもともと、天皇や皇后の忌日法要に対する敬称でした。大永三年（1523）に後柏原天皇より、「法然上人の年忌を『御忌』とし、毎年1月に7日間の法要を勤めるように」との詔勅が総本山知恩院に下されて以来、「御忌」という言葉が法然上人の忌日として用いられるようになりました。

総本山知恩院が、明治期に1月の法要を4月に変更してより前述の時期に勤められるようになったという事です。

御命日の2日前にお弟子に託されたご遺訓は、皆さんご存じの「一枚起請文」です。浄土宗徒においては、是非1月25日のご命日にこの一枚起請文をお称えし、法然上人のご遺徳をお偲びしたいところです。

昨日称えたお念仏と今日称えたお念仏は別のもの?!

浄土宗では、声に出して南無阿弥陀仏とお称えすることをとても大切にしています。浄土宗のお念仏とは、南無阿弥陀仏と声に出して称えることをいいます。そして、このお念仏は、長く称えることが肝要とされています。法然上人（1133～1212）は、次のようにお示しであります。「長時修じょうじしゆというは、善導ぜんどうは『命の終るを期として誓ちかって中止ちゆうしせざれ』と云う」。昨日お念仏したから、今日は称えなくていいということではなく、私の命がいつかは終わっていく、その最期臨終の夕べまで命あるかぎりお念仏申して生きていこうという姿勢が、真のお念仏者の生き方です。

ところで、どうしてお念仏は長くお称えすることが、求められるのでしょうか。作家の浅田次郎さんが興味深い考察をしておられます。「自著を読み返す。今の自分には書けない一行もあれば、今ならこう書くと思う箇所もある。ただし訂正はしない。物を作り続ける限り、過去と現在と未来の自分は別人格だと思うからである。」これをお念仏申す私に置きかえると、過去にお念仏申した私と、現在お念仏申す私、そして未来にお念仏申すだろう私は、すべて別の人格であることになります。そういただくと、昨日お念仏申した私は阿弥陀さまに救われているけれども、今日の私は今お念仏申してはじめて阿弥陀さまが救ってくださるという信心になります。そういう意味において、長くお念仏申すということが求められるのです。

非連続の連続という表現があります。なにか哲学的で難しそうな感じがいたしますが、これは私たちの在り方を率直にあらわしています。昨日の私と今日の私と未来の私のすべてが別の人格であるということは、連続していないことになります。つまり非連続なのです。しかし、朝起きて私は誰？ あなたは誰？とはなりません。連続してない人格ながら、私として連続しているのです。お念仏者にとっては、この世での命を終えて、お浄土に往生生まれるということが、この非連続の連続にあたります。自己中心的在り方をしている私たちが、真実の世界・やすらぎの世界であるお浄土に到達することなど決してできません。しかし、阿弥陀さまが用意してくださったお念仏の道を歩むことにより、私たちはお浄土に往生生まれることができるのです。お浄土という真実の世界に到底連続することなどできないこの身が、阿弥陀さまの大いなるやさしさにより開かれたお念仏の道によってのみ、お浄土へと連続することが実現するのです。

お念仏とは、ただ単に長く称えなければならないということではなく、刻一刻と変化する私自身をみつめ、新たな声で南無阿弥陀仏とお称えすることなのです。

※次回からは、「仏法つれづれ」と題して連載していきます。



善導大師と法然上人のお出会い（当山蔵 法然上人絵伝 部分）

〈文：立花俊輔〉

ズッコケ尼さんの仏教こぼれ話②③

〈令和最初のお正月を迎えて〉

こまきね きんしょう
駒木根 琴生



一年には様々な節目がある。我が家の節目の一つに家族揃っての元旦がある。昨年五月、改元の節目となった令和元年は終わった。

十二月二十二日、即位礼が始まり、国の内外に皇位継承を示された。十一月十日、新天皇陛下様達のパレードのテレビを楽しみに観た。雅子妃のお元気そうな美しさ、時々、目を交わすお二人の笑みに敬慕の念が膨らみ、日本の未来を重ねた。ふと、天皇陛下のお誕生の昭和三十五年に思いを馳せた。ご一家が渋谷の仮御所にお住まいの時だった。同じ町内にある女子大に入寮していた私はお誕生祝いに参列し、紅白のお餅を頂いた懐かしい思い出がある。

さて、パソコンやスマートフォンの発達で年賀状は減少している様だ。我が家もピークの時よりは少なくなったが三百枚を投函した。主人が縦・十五センチ、横・十センチのハガキに絵を描き、私は宛先と近況報告の係だ。しかし、ズッコケの如く、住所を書き忘れて、宛先不明で戻ってくることもよくある。今年の絵は昨年訪問した長崎県の軍艦島を描いていた。必ず本人が訪れた地の建物などに拘っている。その絵を楽しみにしている知人達の存在が励みになっている様だ。そして、私は与えられた左上の四センチ正方の余白に家族の日常を書く。相手の顔を浮かべながら楽しい、有難い時間になる。



正に、さだまささんの言葉「手紙を書く間、ずーっと貴方の事を思っていますよ」相手との時間のプレゼントであるの心境だ。高齢者の我が家には喪中のハガキが増えた。主人側は主人と生年月日が同じで、高校と大学も同じのKさんとの別れ、弔辞を介して無念を伝えた。私の方は出家後に出逢った尼僧さん二人の淋しい別れもあった。又、三人の子供達を残し、五十歳で急死した姪。号泣のお通夜の席で、先に逝った彼女の父（私の兄）祖父母（私の父母）との浄土での再会の確かさを伝えた。法然上人の「同一蓮」の約束である。つまり、

「例え此の世で別れても阿弥陀仏の西方極楽浄土に往生した際には蓮の^{うてな}台を空けて迎え入れてくれる」

という再会のみ教えである。

此の世は無常の世だけに「若き・強さにも因らず、思いがけずにやってくる死」の通り、愛する者と別れなければいけない私達である。

此の冬、今朝からずーっと続いている空を見上げ「雪の結晶は空から送られた手紙」の一言が過ぎた。四十五年前に別れて逝った長男はどんなメッセージを母に届けてくれているのか……とお念仏の中で空を見続けた。

生きて良し 死してまた良し 南無阿弥陀佛 仏まかせの身こそ 安けれ



新善光寺に久々の ニューフェイスが!!

さ こ こうしょう
佐古 康祥

昭和61年12月5日 生まれ

岐阜県の中津川市にある医王寺から参りました。中津川は岐阜県の中でも長野県境ということで山の中にある町です。お寺は旧五街道の1つである中仙道に面し、作家の島崎藤村の出身地としても有名な宿場町、馬籠も近くにあり、海外からの観光客が「山の中の日本の古い道を歩く」ということで近年増えている場所です。

私は新善光寺副住職と総本山知恩院での加行（最終修行）で一緒だったご縁で2017年より夏のお盆参りを手伝わせていただいております。

それまでは2011年より浄土宗開教師として、ブラジルにある南米開教区に4年間浄土宗から派遣され駐在しておりました。ブラジルには日系人が多いということで浄土宗の寺院が4つあり、その本部サンパウロ日伯寺にて活動しておりました。日本とは文化や宗教に対する考え方が違う中、活動できたことは私の中で大きな経験となっています。

北海道でもいままでの経験を活かし、皆様と一緒に手を合わせる事ができる幸せを感じながら活動していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



山奥の静かなお寺（医王寺）



しだれ桜が有名（医王寺）



ブラジルの日伯寺



ブラジルでの法要的一幕

— お檀家タウンページ ~ともいき訪問⑰—

マコト屋

創業70年の“海苔・かつお節”の卸し

今回は中の島にある海苔とかつお節の卸しをされているマコト屋さんに行ってきました。

玄関を開け、入った瞬間にかつお節の良い香りが広がり、心地よい気分になります。

玄関のすぐそばに直売所があり、沢山の商品が並び、取材の最中もひっきりなしに買いに来られる方のお姿がありました。

会長の宇和野智也様にお話をお聞きしました。

創業は昭和25年、今年で70周年を迎えられるということです。創業場所は南16条西6丁目、会長のお父様が丸井系列の食品会社を45歳で退職し自転車一台で開業されました。会長も中学校卒業後すぐに一緒に仕事をされ、会社と共に人生を歩まれたといっても過言ではないとのことでした。

「当時、のりは焼いて売ってることがなく売れた時代で、焼かないで小売店に持って行っていました。また現在7~800軒の窓口はありますが、70年前からというところおそらく5~10軒あるかないかというところですよ。」と貴重なお話も聞かせていただきました。

現在の主な仕事は花かつお・焼き海苔の製造で、和食料理店、居酒屋やそば屋などに卸しており、そのほかに一般的な乾物類などの卸しや小売りもされています。

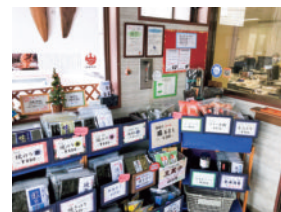
新善光寺との付き合いは古く、「小学校の時に父親にお寺に連れて行ってもらっていて、檀家になっておそらく80年くらいだと思います。」と、またご両親のお葬儀は新善光寺でおこなわれ、ご自身の納骨壇も購入いただいております。

先日、STVの番組「どさんこワイド」で“お得な工場直売所”と紹介されており、直売所では、かつお節は削りたてを買うことができ、削りたては色も香りも素晴らしく良く、様々な種類をブレンドしてくださるとのことです。

かつお節や海苔の良い香りが漂う世界に足を踏み入れてみませんか？



宇和野智也会長



マコト屋

札幌市豊平区中の島2条3丁目6-4

TEL 011-821-5681

営業時間：8：30～17：30

(土曜日は13：00まで)

定休日：第2・4土曜日、日、祝日

(月曜日が祝日の場合は営業)



《清璋寺から》

新年の法要をおこないました！

明けましておめでとうございます。

清璋寺では1月2日に“修正会並びに新春大祈願法要”をおこない、多くのお参りの方と共に念仏をお唱えしました。

また法要後は恒例の餅つきをおこない、子どもたちのにぎやかな声が響き渡りました。

どうぞ、本年も宜しく願いいたします。

(住職 太田光顯)



〈2020年清璋寺法要予定〉

3月22日(日)13時：春彼岸法要

8月10日(月)13時：お盆の法要

9月20日(日)13時：秋彼岸法要

《納骨堂のご案内》

様々なタイプの納骨壇があります。どうぞ、是非ご見学にお越し下さい。



札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35 清璋寺

TEL 011-668-5110

慈啓会から

慈啓会短期入所生活介護ユニット型(ショートステイ)

当施設のショートステイは、慈啓会特別養護老人ホーム（ユニット型）内において、全室個室10床で実施しております。

「ショートステイという言葉は聞いたことがあるけど、どんなサービスなんだろう？」と思われる方もいらっしゃると思いますので、簡単にご説明させていただきます。

ショートステイとは介護保険法の在宅サービスの1つであり、「要支援」、「要介護」と認定された方がサービスの対象となっております。介護されているご家族様が旅行や冠婚葬祭のためどこかに行かれる場合、ご病気になった場合、その他、介護されている方の身体的・精神的な負担を軽減するためにご希望の期間施設に宿泊して頂き、ご家族様の代わりに日常的な介護と生活の場の提供をさせていただきます。それ以外にも昨年より理学療法士による個別機能訓練（リハビリ）も日曜日以外毎日実施しており、在宅での生活を維持するための支援も行っております。

前回ご紹介させていただきました慈啓会デイサービスと併用されている方もおり、1泊からの体験利用も実施しておりますので、在宅介護をされている方、お知り合いで介護で困っている方がいらっしゃいましたら是非ご相談ください。



慈啓会総合相談室のご案内

介護についてご心配やお困りのことがあればお気軽にご相談ください。
専門スタッフがご相談に応じます。（相談無料）

フリーダイヤル **0120-83-8291**

受付時間：8：45～17：00（土日祝は除く）

メール：info-jk@sapporojikeikai.or.jp

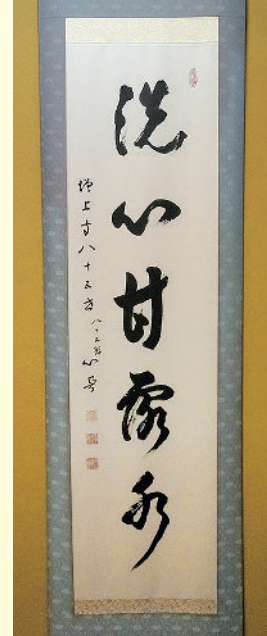
お寺の額縁・掛軸を紹介します⑭

せんしんかんろすい
21 洗心甘露水

この軸は、中村康隆上人（明治39年生～平成20年没）の御染筆です。

上人が、増上寺85世であられた時、頂戴したものです。「こころをあら洗かんろうみず甘露の水」と読み、善導大師の著述の一節です。極楽浄土の池に満ちている水は、心を洗い濁いたものを潤すという意味です。

普段は非公開にしておりますが、今年の6月21日の御忌・永代祠堂法要の時に公開しようと考えております。



～善いことも 悪いことも 受け止めて 最善を尽くす～

同封の年回忌表に書かれている言葉の紹介です。

「生きてよし 死してまたよし 極楽の 弥陀のみもとに 生まるうれしさ」。このお歌は、羽田恵三師（昭和22年生～平成17年没）の詠まれたものです。師は、晩年に病との生活のなかで余命いくばくもないことを知りながらも、以前と変わることなくお念仏の御教え・浄土の御法みのりを人々に説き示しました。それと同時に、自らの信心を深め、お念仏の日暮らしを送られていました。死ぬことは悪いことと思いがちですが、お念仏者にとってはその趣きが少し異なるのではないのでしょうか。私たち浄土宗徒にとって、最も善なるものもつととは、お念仏の行なのです。

善いことも
悪いことも
受け止めて
最善を尽くす

北縁 なんでも Q & A

いつも北縁をお読みいただきありがとうございます。今回もお葉書での投稿、写経会のご参加の方からのご質問にお答えしていきたいと思えます。

また、本紙添付のハガキでも引き続きご質問、感想を募集しています。どうぞよろしくお願ひします。

Q 仏様の種類（名称）と主なご利益などを教えてください。

A 「昔から、この〇〇を信心すればご利益をいただけるといわれています」などとうたっている寺社仏閣は数多くあります。それぞれの寺社仏閣の縁起などで、伝えられるご利益などは異なりますが、ここでは、一般的に伝えられる仏様別のご利益（又はその一部）を紹介します。

一口に一般的な仏様といっても、かなりの仏様がいらっしやるので、皆さんがご存じであろう仏様をご紹介します。

にょらい
【如来】：悟りを開いた存在。質素な衣を身に着け、基本装身具は付けない。
釈迦如来…人を悟りへと導く。
薬師如来…病氣平癒（とりわけ眼病）・除病延寿・災難除去・現世利益。
阿弥陀如来…極楽往生。現世安穩。
大日如来…現世安穩。所願成就。

ぼさつ
【菩薩】：如来を補佐する役割。装身具など付けている。如来のひとつ手前の存在。
聖観音（観音菩薩）…苦難除災。極楽往生。開運厄除。
十一面観音…除災除疫。あらゆる方向からの願ひを聞き入れる。
千手観音…除災除病。敬愛（夫婦円満・恋愛成就）。
馬頭観音…畜類救済。息災。交通安全。
文殊菩薩…知恵。学問。
普賢菩薩…増益延命。女性守護。
勢至菩薩…智慧明瞭。家内安全。除災招福。
地藏菩薩…安産子授け。子供守護。水子祈願。交通安全。無病息災。
弥勒菩薩…未来を救済する。衆生救済。

みょうおう
【明王】：仏の教えに従わないものを正しく導く。怒りの表情、勇壮なポーズ。
不動明王…煩惱・悪行除滅。厄除災難除去。開運吉祥。出世。

てん
【天】：古代インドの神々が 仏教に取り入れられたもの。
梵天…仏法守護。戦勝国土安穩。立身出世。
帝釈天…仏教守護。国家守護。商売繁盛。財宝金銭。
四天王（多聞天・持国天・増長天・広目天）…仏法守護。

スリッパのデザインが決まりました

前号で募集しましたスリッパの新デザインですが、ありがたいことに多数のご応募をいただきました。審査の結果、藤原守様からいただいたデザインに決定しました。

現在、制作中のため次号で詳しく紹介したいと思います。

東京別院 霊源寺から

霊源寺では3月と9月に本堂で彼岸法要をおこなっており、今年は3月22日（日）11時から春彼岸法要をおこなう予定です。東京近郊にお住まいの方は是非お参りください。

また、ご葬儀やご法事、お盆のお参り等も承っております。どうぞ、お気軽にご相談ください。

大光山 霊源寺

受付時間 9:00~19:00

毎日見学受付中

東急目黒線・不動前駅 徒歩7分（桐ヶ谷斎場真向かい）

〒142-0063 東京都品川区荏原 1-1-2 FAX:03-3494-6319

TEL:03-3494-1083

大光山霊源寺 検索



編集後記

明けましておめでとうございます。

前号のアンケートはがきで「春や夏に庭で自然を眺めながら交流会をしてほしい」という意見がありました。是非前向きに検討したいと考えております。

今年は秋に知恩院団体参拝旅行も計画しており、盛りだくさんの1年になる予感です。

どうぞ、本年もよろしく願いいたします。

(真海)

※新善光寺の日々の情報は各種 SNS にて公開しております。どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。

新善光寺

検索



Hokuen 42

新善光寺寺報

北 縁

発行 / 2020年1月発行

発行責任者 / 新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706

[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp